

## 議会運営委員会所管事項調査報告書

期日	令和7年10月15日（水）
訪問先	愛知県 半田市議会
出席者	遠藤 浩一 委員長 高村 真和 副委員長 いわさきかずや 委員 田口 孝男 委員 名切 文梨 委員 川口 仁 委員 松田 則康 委員 井上 武 委員
随行者	中井 議事調査係長
調査項目	議会運営（政策提言、事業評価）並びに議員報酬について
調査内容	<p>○政策提言には次の2つがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>委員会の議会閉会中の調査活動によるもの           <ul style="list-style-type: none"> <li>5月の臨時会で委員を選任し、6月定例会までにテーマを決定</li> <li>6月から翌年1月にかけて視察や勉強会を実施</li> <li>2月から4月にかけて提言のまとめ</li> <li>5月の臨時会で調査結果の報告と提言（提言に対する回答は求めない）</li> </ul> </li> <li>決算審査と併せて行う事業評価によるもの           <ul style="list-style-type: none"> <li>6月中旬までに常任委員会で評価対象事業を1つ選定（選定に当たっては執行部と調整する）。必要に応じて対象事業の勉強会を実施</li> <li>9月定例会の会期中に評価を実施（まとめる段階で執行部と調整する）</li> <li>評価後は委員長連絡会議で文言の統一等を図り、全議員が出席する議員総会で合意を得る</li> <li>9月定例会が終る時期に市長へ評価結果の報告と提言（期限を定めて取組方針と報告を求め、どのように次の予算に繋がっていくかを確認する）</li> </ul> </li> </ol> <p>○議員報酬は、特別職報酬等審議会の答申に基づき執行部からの議案提出という形で令和7年4月に改定した。引上げ額は議長が8,000円、副議長が7,000円、議員が6,000円。議会が様々な課題に対する調査研究に取り組むなど精力的な議員活動が評価された。なお、報酬等審議会は毎年開かれており、議会の活動状況（会議の開催回数、議案議決の状況、請願・陳情の処理状況、正副議長の行事出席回数等）を提出している。</p>
主な質疑	<p>問 議会の事業評価と執行部の事業評価の結果が異なることはあるか。</p> <p>答 市民の感覚と異なる評価をしている事業、改善しなければならない事業を選定することもあるため結果が異なることは十分あり得る。過去に、議員が事業の解釈を誤り適切に評価できなかつたことがあったことから、令和7年からは委員会を開いて担当部長から説明を受け、事業内容を理解してから評価するようにした。また、評価のやり方も毎年改善している。</p> <p>問 議員報酬の引上げに至った経緯は。</p> <p>答 人事院勧告により職員がベースアップしていること、市を議会もバックアップしていることが評価され引上げに至った。</p>

期 日	令和 7 年 10 月 16 日 (木)
訪問先	岐阜県 可児市議会
出席者	遠藤 浩一 委員長 高村 真和 副委員長 いわさきかずや 委員 田口 孝男 委員 名切 文梨 委員 川口 仁 委員 松田 則康 委員 井上 武 委員
随行者	中井 議事調査係長
調査項目	4 つの議会サイクル（議会運営、予算決算審査、意見聴取・反映、若い世代との交流）について
調査内容	<p>○議会運営サイクルについて</p> <p>委員の改選が 8 月にあり、改選後すぐに決算審査が始まるため、議員の任期終了時に次期の議長と委員会に引き継ぐ課題をまとめている。こうすることで次期の議会活動を円滑に始めることができる。</p> <p>○予算決算審査サイクルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決算審査を起点として政策提言を行う。審査は重点事業点検報告書に基づき、事前に指定した事業について行う。報告書には事業内容、予算額、決算額、目標値と結果、複数年にわたる予算執行状況、今後の課題等の詳細が記載されている。</li> <li>・決算審査の質疑は通告制としており、質疑の内容は正副委員長が精査し、政策提言につながるものを探用する。数字の質問などは通告せず、事前のヒアリングで済ますよう議長から正副委員長と事務局に指導している。</li> <li>・政策提言は常任委員会単位で分科会を設置してまとめる。議会報告会などで出た市民の意見を反映し、原則として全会一致となったものを市長へ提言する。</li> <li>・これらの内容を 1 年サイクルで回している。</li> </ul> <p>○意見聴取・反映サイクルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会報告会は議会基本条例で毎年開催すると規定し、春（5 月頃）と秋（11 月頃）に各地区センター単位で開催している。</li> <li>・議会報告会で出た課題はその場で解決するようにしているが、解決できないものは持ち帰って所管の委員会で調査研究を重ね、結果を議会報告会で報告する。</li> <li>・調査研究の過程で課題の緊急性・必要性等を勘案し、委員会の全会一致を得た場合は委員会として質問する委員会代表質問を本会議で行う。委員会代表質問は一般質問の前に行われ、時間は答弁を含めて 60 分間。質問項目は各議員の一般質問や委員会の所管事務事項で、事前通告制としている。委員会代表質問の成果の 1 つとして、全国どこでも可児市の情報を得られる地元 FM 放送が聴けるアプリが導入された。</li> </ul> <p>○若い世代との交流サイクルについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て環境や駅前に建設予定の拠点施設（現：子育て健康プラザ mano）に関する意見交換の場としてママさん議会を平成 28 年に 2 回実施した。</li> </ul>

	<p>・キャリア教育支援として小学生を対象とする子ども議会（平成16年以降毎年）、中学生議会（平成4年）、高校生議会（平成26年以降毎年）を開いている。子ども議会では財政難の中で廃止する事業を話し合い、採決した。また、18歳以上に投票権が与えられたことを受け平成26年に2つの高校で模擬投票を行った結果、直後の参議院選挙では2校の生徒の投票率は90.1%、75.8%と高いものであった。</p>
主な質疑	<p>問 決算審査に伴い行われる事業別の説明は、重点事業や新規事業のみ行われるのか。      答 5年くらい前までは全ての事業について説明を受けていたが、現在はある程度絞っており、重点事業のほか決算の増減が前年度比プラスマイナス20%を超える事業について説明を受けている。</p> <p>問 高校生議会では県が所管となるような課題も出ると思うが、どのように対応しているのか。      答 市民も県民という意味では所管を深く考える必要はないと思う。現在、電車の廃線の問題が出ているが、生徒の通学方法については市としても取り組んでいる。広く積極的に意見を聴取して問題を解決していくこうと思っている。</p>